

[普及事項]

新技術名：リンゴ「ふじ」に対する摘果剤利用の作業時間短縮効果 (平成6～8年)

研究機関名 果樹試験場栽培部栽培担当
担当者 森田 泉・上村大策 他3名

[要約]

リンゴ「ふじ」に摘果剤（ミクロデナポン水和剤＋ニーズ）を使用することにより作業時間が最大で50%、平均で30%短縮された。

[ねらい]

摘果剤の使用による摘果作業の大幅な時間短縮と早期適正着果による品質向上（大玉生産）を検討して労働力の適正配分による規模拡大の可能性を検討する。

[技術の内容・特徴]

- 1 ミクロデナポン水和剤1,200倍に展着剤ニーズ1,000倍加用することで、摘果効果の安定と効果発現が2～3日早まった。
- 2 摘果効果の良否は散布後の天候に左右され、散布後、気温が低い場合は効果が劣る傾向にあった（第1図）。
- 3 作業時間は摘果剤の効果による年次変動があるものの最大50%、平均で30%前後の時間短縮が確認された（第2、3、4図）。
- 4 摘果作業の短縮効果は、薬剤の散布時期を側果に合わせていることから、粗摘果の作業時間に大きく現れた（第2、3、4図）。
- 5 摘果時間の短縮効果（最大50%として）を経費に換算しても経済効果は十分に得られ、規模拡大の可能性も示唆された（第1表）。

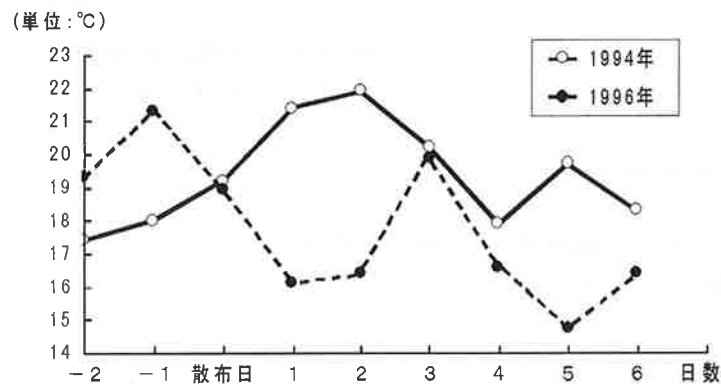
[普及対象範囲]

全県のリンゴ栽培地帯

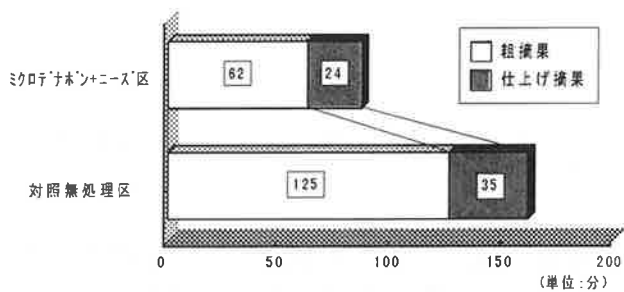
[普及・参考上の留意事項]

- 1 対象品種は主力品種「ふじ」とする。
- 2 散布時期の決定は満開後日数、果実の大きさ、散布日前後の天候を考慮する。
- 3 効果の発現には最低10日は必要であることから、満開30日頃までに粗摘果が終了できない園地で主体的に使用する。
- 4 散布後の天候によって効果が劣る場合もあるので、果軸が黄変しない時は時期を失しないように摘果作業を進め適正着果に努める。

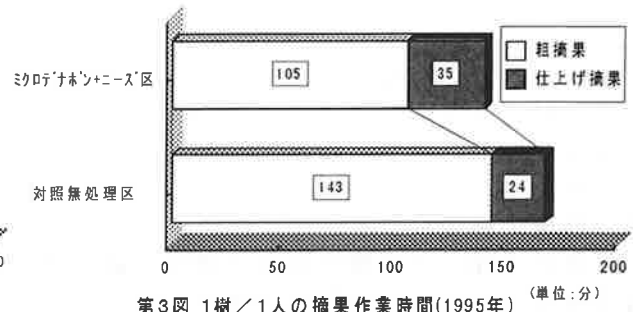
[具体的なデータ等]



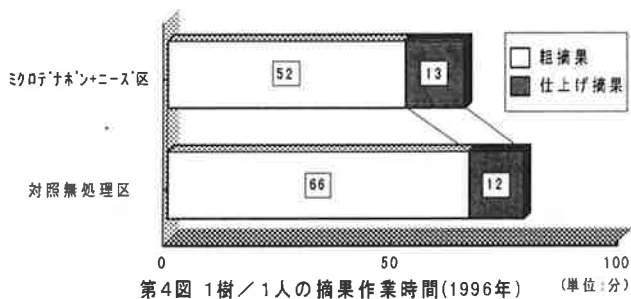
第1図 散布日前後の気温変化



第2図 1樹/1人の摘果作業時間(1994年)



第3図 1樹/1人の摘果作業時間(1995年)



第4図 1樹/1人の摘果作業時間(1996年)

第1表 作業時間の短縮と経済効果 (10a 当たり)

処理区分	散布時間	摘果時間	賃金 ²	薬剤経費 ³	経費合計
マイクロナホﾞン+ニース ²	0.5	24.0	18,400	1,700	20,100
対照無処理		48.0	36,000		36,000

² 1日6,000円の雇用賃金として換算 (単位: 円)

³ 薬剤、展着剤、燃料、散布機械の原価償却等の積算 (単位: 円)

[発表文献等]

なし